

東北経済に イノベーションを起こす 次世代経営者を育成し 事業化を支援します。

国立大学法人 東北大学
地域イノベーション研究センター長
大学院経済学研究科教授

ふじもと まさひこ
藤本 雅彦氏

プロフィール

昭和34年北海道生まれ。58年東北大学教育学部卒業、平成11年東北大学大学院経済学研究科博士課程後期修了。(株)リクルートなどの会社勤務を経て、16年東北大学大学院経済学研究科助教授、19年教授に。専門は組織と人材のマネジメント。地域イノベーション研究センター長、総長特別補佐(業務改革担当)などを務めながら、産業能率大学大学院総合マネジメント研究科(MBAコース)非常勤講師、(株)サイエンティア非常勤顧問などを兼務し、多忙な日々を送る。



塾生12人でトライアル

― 来年度から正式に開塾する「地域イノベーションプロデューサー塾」の概要を教えてください。

東北大学大学院経済学研究科に置かれている地域イノベーション研究センターでは、昨年4月より中長期的な視点から東北地域の産業と社会の復興を支援する「地域産業復興支援事業」に取り組んでいます。この事業は「地域の調査研究」と「人材育成と事業化支援」という2本柱で構成されており、後者が「地域イノベーションプロデューサー塾」というわけです。

東北経済は震災前から様々な課題を抱え、これまでのパラダイム(枠組み)では東北経済が縮小傾向にあることに歯止めをかけることが困難であるといわれてきました。そこでこの難局を打破するために、地元の経済を支える中小企業が新しいイノベーション(変革)を起こし、新たな雇用を生み出すことこそが東北経済を元気にするという発想から、イノベーションを牽引するプロデューサーを育成し新たな取り組みの事業化を支援する塾を開塾することになりました。

― 講義の内容を教えてください。

現在、来年度の開塾に向けてトライ

アルというかたちで地元中小企業の次世代経営者等の方々12人の塾生を対象にして、毎週火曜日と月2回の土曜日に、当センターで実施しています。講義の内容は経営のしくみから学ぶ基礎講座と、実際にイノベティブ(革新的)な事業計画を作成する実践ゼミ、事業家マインドやマネジメントスキルの研修、専門分野の第一人者を招いて講義をしていただく特別講座からなります。仙台商工会議所青年部の方々も多数受講されています。

来年度は9月から2月までの半年間、次世代経営者あるいは地域企業の幹部の方などを対象に選考を行い、30人の塾生を迎えてスタートする予定です。

継続支援で「点」から「面」へ

― 欠席者に対するフォローや、卒業後の支援について教えてください。

基礎講座に関しては本学のISTU(東北大学インターネットスクール)を活用し、実際の講義を録画したものを自宅で見ながら勉強してもらおうと考えています。もともと、この事業は東北6県に展開する予定なので、ISTUをはじめ、インターネット会議システムを使つての同時中継講座の実施も視野に入れています。実践ゼミについては、地元のコンサルタントの方に担当してもらおうこととなります。腕利き



試行的に実施しているマインド研修の様子

のコンサルタントに特任教授、特任准教授として担当してもらう予定です。卒塾後は、塾生同士のネットワークの「場」を提供するのはもちろん、講師陣が継続して助言する支援体制を組みます。事業化支援のための仕組みについて、金融機関をはじめとして地域の様々な支援機関の特徴を踏まえ、それぞれの得意分野での支援を有機的に組み合わせて活用できるようにしていきます。

―理想の塾生像とは。

卒塾の条件は、地域貢献しうる事業計画を完成させること。完成度の高さは銀行の支店長、融資を決める審査部長が納得できるレベルに達していなければなりません。この塾が重要視しているのは、既存の事業の枠組みを超えた新たな取り組みにチャレンジしよう

【概要】

東北大学大学院経済学研究科
地域イノベーション研究センター

設立: 2005年7月

所在地: 仙台市青葉区片平2丁目1-1

エクステンション教育研究棟 6階

TEL.022-217-6265

FAX.022-217-6266

E-mail:rip@econ.tohoku.ac.jp(塾専用アドレス)

ホームページ:http://www.econ.tohoku.ac.jp/irrc/

入塾に関するお問い合わせ:富澤または倉田まで

としている方を対象にしているということですが。いかにイノベーションを起こして、地域にインパクトを与えられるのがポイントだと考えています。なお、塾生の募集に関しては自由応募はもちろん、人材を推薦してもらうよう、様々な機関に協力を働きかけつもりです。

イノベーションに必要なのは、「情熱」と「ロジック(論理)」と「直感」です。他の人が見えない部分が見えているからこそ、新しいビジネスが生まれるわけですから、直感も大切です。しかし直感があっても論理的な裏付けとか、説得力がなければ雇用を拡大するような大きなビジネスに育てることは困難です。この塾に入ってから、半年間で論理を学び、効果的・効率的に事業計画をブラッシュアップしたいという方は、ぜひ入塾してください。

「塾生の声」
もの見方、
考え方が
大きく変わります。
入塾してわかった
のは、自分では多少
なりとも自信をもつ
て作成していた事業
計画に、足りない部
分がたくさんあった
ということでした。それを補うために、



ニシ商事(株)
(太白区)
専務取締役
営業本部長
西下 孝之さん

この塾で経済や経営に関して基本から学ぶわけです。これまで自己流で学んできた経営学を論理的に噛み砕いて学ぶことができるので、事業計画にしっかりと軸が加わったように感じます。例えるなら、経営学者のドラッカーが書いた「マネジメント」は難しくて5ページと読み進められませんが「もしドラ」ならすんなり頭に入ってくる感覚に似ていると思っています。講義の内容も「これは自分の事業にこんなふうに応用できるな」と結び付けて考えることができるのでとてもわかりやすいですね。

私たちは、来年3月に卒塾しますが、それまでに自分の事業計画はもちろん、1期生以降の皆さんがより効果的な支援が受けられるよう、私たちトリアール生の感想や意見を踏まえながらカリキュラムもブラッシュアップされます。ぜひ、たくさんの方々に入塾の応募にチャレンジいただきたいと思います。ともに地域のイノベーションを牽引できるプロデューサーをめざしましょう。



『森』は生きています。人間と共に。

二酸化炭素を酸素に。人間にとって欠かせない酸素を、人間が吐き出した二酸化炭素から作り出す植物たち。この自然のサイクルを、一本の木を、そして森全体を、見守っていかなくては……。そう私たちは考えています。私たちは青葉環境保全です。

より良い環境をめざす
AOBA 青葉環境保全

本社/仙台市若林区蒲町19-1

電話(022)286-3161(代)